

心が元気になる、5つの部活ストーリー

# 青春サブリ。

—— 自分がここにいる理由

青木美帆・田中夕子・ささきあり  
近江屋一朗・日比野恭三文／くじよう絵

# Contents

— 目次 —

005	あたしがチームにいる意味
007	中部大学第一高等学校男子バスケットボール部 仮入部
012	マネージャーの仕事
017	コーチングの壁
023	試練
030	リスベクト
035	最後のウィンターカップ
040	あらたな旅立ち
043	バレーボールの神様
045	福井工業大学附属福井高等学校男子バレーボール部
047	プロリーグくボクを大切にしてくれる選手く
047	突然の別れと転機
055	自分の居場所
062	最後のチャンス
066	奇跡
073	エピソードく願えば叶うかもしれないく
075	合唱部、はじめました。
077	法政大学第一中高等学校 合唱部 合唱部員第一号
082	あと2人
088	みんなの気持ち
092	初めてのコンクール
098	2年目の挑戦
106	全国く
111	おれでもうどん店を持てますか？
113	山梨県立ひばりが丘高等学校うどん部
117	なんてうらやましい
128	さっそくの後悔
137	もう辞めたい……
140	吉田のうどんが消える!?
147	とんとん拍子
147	遅咲きのアスリート
149	広島県立世羅高等学校陸上競技部
152	期待と不安
158	トラブルメイカー
161	確かな自信
166	たゆまぬ努力
171	優勝への意志
	特別な絆

STORY. 1

あ  
た  
し  
が  
チ  
ー  
ム  
に  
い  
る  
意  
味

この本に収録しゅうろくされているストーリーは、  
すべて実話じつわです。

中部大学第一高等学校 男子バスケットボール部 愛知県日進市

田口知花 (トモカ) | Tomokuchi Tomoka  
不屈の女子マネージャー。



常田健 | Tsuneta Ken  
監督。トモカを信頼している。U18のコーチを兼任。



星野京介 | Hoshino Kyosuke  
シュートが得意。キャプテン。



仮入部

街に春の匂いが漂い始めると、トモカの胸は早鐘を打つ。体育館の通路の一番奥にある、教官室をノックしたあの日。もう5年以上も前のことなのに、あの日の匂いも、ドキドキも、いつまでたっても忘れられない。

「失礼します」

扉を開けると同時に、ふわっとコーヒーの香りが漂った。ほっとしたのもつかの間、その奥に男子バスケットボール部の常田健監督の姿を見つけると、トモカの背筋はいつも以上に伸びた。髪をオールバックに整えた、学校きってのコワモテが、メガネの奥を光らせながらトモカを見つめている。

「1年普通科G組の田口知花です。マネージャーとして男バスに入部させてください。よろしくお願いします!!」

仮入部  
中学や高校の部活動で、入部する前に仮の部員として1〜2週間活動すること。体験入部。

常田監督の迫力に震えそうになりながら、トモカは精一杯の元気と勇気で声を振り絞った。しかし、常田監督はニコリともせず、それどころか、ごく当たり前のように言った。

「どうせすぐに辞めるでしょ」

（先生やお姉ちゃんが言ったのは、こういうことか……）

中部大学第一高等学校の男子バスケット部は、全国でも屈指の強豪であると同時に、学校で最も厳しい部として有名だった。トモカがこの部への入部を希望していることを知った担任の先生は、「がんばれよ」と励ますどころか、「みんなきつく辞める。絶対入部しないほうがいい」と大真面目な顔で言った。中部大第一出身の友達にいた4歳上のトモカの姉も、妹の決断に信じられないというような面持ちで、「本当にやばいよ？ 尋常じゃないらしいよ？」と、きつく忠告した。

（わかっている。わかっているよ。でも、あたしは『きつく』て『やばい』からこそ、この部活に入りたんだ）

常田監督の迫力と冷たい視線に、震えそうになる足。しかしトモカはぐっと力を

込めてそれをこらえ、言葉を続けた。

「いえ、辞めません。がんばります！」

常田監督はなおも表情を変えることはなかったが、トモカをじっと見て、言った。「じゃあしばらく、仮入部でやってみな。嫌だったら辞めてくれて構わないから」

教官室の扉を閉めた瞬間、信じられないほどの疲労感がトモカを襲った。しかし、同時にその胸にはメラメラとやる気の炎が揺らめいていた。

（仮入部？ そんなのいらぬ。だってあたしは絶対辞めないんだから。今すぐ本入部して、一人前のマネージャーになりたい！）

トモカの『高校デビュー』は灰色だった。第一志望だった高校への進学をあきらめ、家から近いという理由だけで選んだ中部大第一に入学した。中学の時にやっていた吹奏楽を続ける気になれず、だからといって新しいことを始めてみたいという気持ちにもなれなかった。新しい場所で迎える春なのに、テンションは一向に上がらなかった。

ところが、興味本位で見学を訪れた男子バスケット部が、トモカの世界に一瞬で色をつけた。怒号のような大きな声とドリブルをつく音、バスケットシューズがキュツとすれる音が響き渡る体育館で、部員たちは全力で跳び、走り、ボールを追いかけていた。そのかたわらには、ホイッスルを口にくわえ、厳しい表情で練習を見守る女性もいた。

(マネージャーさんかな。カッコいいな)

小学校のころ、トモカはミニバスケットボールクラブに入っていた。しかし、ケガをしがちでプレーできない時間が多かったため、ドリンクを作る、Tシャツをたたむなど、マネージャー的な役割をすることも多かった。

そして、トモカ自身もその役割が嫌いではなかった。みんなが嫌がるトイレ掃除をいつも自らすすんで行っていたし、第一志望だった高校に入学していたら、キャビンアテンダントを目指して厳しい実習や課題に励む予定だった。人がやらないことをすすんで請け負う。そして、やるならとことん厳しく、どこまでも突き詰める。それがトモカの性分なのだ。

(この部でマネージャーをやる。ここには3年間、必死になって打ち込めるものがある)

そんな確信と覚悟をもって、トモカは教官室の扉を叩いたのだ。



# 青春サプリ。

—自分がここにいる理由

2020年2月 第1刷

文：青木美帆・田中夕子・ささきあり・  
近江屋一朗・日比野恭三

絵：くじょう

発行者：千葉 均

編集：榎屋洋子・崎山貴弘・堀創志郎

発行所：株式会社ポプラ社

〒102-8519 東京都千代田区麹町4-2-6

電話：03-5877-8113(編集)

03-5877-8109(営業)

印刷・製本：中央精版印刷株式会社

装丁・本文デザイン：ナオイデザイン室

© Aoki Miho, Yuko Tanaka, Ari Sasaki, Ichiro Omiya,

Kyozo Hibino, Kujo 2020

Printed in Japan

ISBN 978-4-591-16571-3

N.D.C.916 175p 19cm

- 落丁・乱丁本はお取り替えいたします。小社宛にご連絡ください。  
電話：0120-666-553  
受付時間は月～金曜日、9～17時(祝日・休日は除く)
- 読者の皆様からのお便りをお待ちしております。  
いただいたお便りは著者にお渡します。
- 本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は  
著作権法上での例外を除き禁じられています。  
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、  
たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。